



会津医療センターから

こんにちは！



【31】血液内科学講座 教授 角田 三郎

『臨機応変に個別化治療』

10月1日付で教授を拝命しました。当科は、会津地区唯一の血液内科で、悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血等が治療分野です。大田雅嗣病院長，スタッフとともに精いっぱい頑張っております。

疾患の治療には、比較的均一な患者さんのグループに異なる治療法を無作為に行い、治療法の優劣を比較検討する集学的治療というものがあります。この場合、科学的解析の信頼性、再現性が必要なため、決められた計画に沿って治療する必要があります。治療法の優劣を科学的に判断できるため、医学の発展には極めて重要です。

ただし、こうした集学的治療や臨床治験では、最先端の技術・技能の有用性を証明するため、該当する患者さんを集め、業績、知名度を上げるという意識が強くなります。臨床研究を推し進めるにあたっては、その治療方針には従わざるを得ないのが実情です。この重要性は理解していても、よりよい治療法で臨機応変に対応したいという本心がどうしてももうずきます。

当科が扱うのは一般的に怖いイメージを持つ疾患です。そのため、常に患者さんに寄り添い、最も適切と思われる治療を選択するよう常に心掛けています。患者さん一人ひとりが皆異なり、それぞれに苦痛、不安、ストレス、問題を抱えて入院して来られることを、私たちはよく知っております。治療後もさまざまな事態が起こります。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、検査技師、ケースワーカーが一丸となって臨機応変に速やかに対応し、柔軟性と即応性を持って一人ひとりに最も適切な医療を実践していきたいと思っております。これが個別化治療です。

初めて医師免許を手にしたとき、苦しんでいる患者さんを何としても助けたいと思うのは自然のことだと思います。あのころのフレッシュな気持ちを大切に、精魂込めて個別化治療を実践してまいります。何とぞよろしくお願いいたします。